

韓国語の漢語ヴォイスの語彙調査¹⁾

——金薫の散文『鉛筆で書く』(2019)にみる漢語ヴォイスの使用状況——

尹 亭 仁

In this paper, I conduct a vocabulary survey of the Korean passive and causative verbs in Kim Hoon's prose, *Writing with a Pencil* (2019), and discuss the characteristics of usage and the derivation of causative verbs and passive verbs in Chinese verbs (*kangodoshi*) of Korean. I would like to highlight one aspect of the use of Chinese verbs in Korean through the expressions of one Korean writer who has lived 70 years as a native speaker of Korean. Although the voice of the Korean verbs have very complicated appearances in derivation, the use of “VN-sikida”, “VN-badda”, and “VN-danghada” were less active than I expected. Based on this result, I will continue to investigate and analyze these verbs as I prepare “the Japanese-Korean Kangodoshi 7000”.

キーワード：韓国語，漢語動詞，ヴォイス，語彙調査，使用語彙，活用
指針の策定

1. はじめに

韓国語の使役用法および受身用法（以下では、「ヴォイス」と称する）は、日本語のそれに比べると非常に複雑な様子を呈している。それらは派生の際、語幹をなす動詞が「固有語動詞²⁾」か「漢語動詞」かによって接続する接辞が異なっており、その接辞も複数あるからである。そのため、日本における韓国語教育の現場では、ヴォイスを中上級レベルで導入するのが一般的である。筆者の場合は、主に学部3年次が対象になっている上級レベルの前期に導入している³⁾。

尹亭仁・崔英姬（2017）は、韓国の日刊紙の『中央日報』の1年間（2016年）の社説に用いられた漢語動詞の語彙調査から約1800語を「使用語彙」として提示している。また、尹亭仁（2018）は、韓国の主要文学賞である

「李箱文学賞」の10年間（2006-2015）の受賞作品を中心に漢語動詞の語彙調査を行ない、約1700語を「使用語彙」として提示している。

本稿では、「中央日報社説2016」と『李箱文学賞作品集2006-2015』の語彙調査の結果を参考にしながら、漢語動詞から派生する漢語ヴォイスの使用状況を具体的に捉えるべく、1人の韓国人作家の作品を対象に語彙調査を行なった。この調査を通して得た、韓国語の漢語動詞のヴォイスが持つ派生上の特徴と示唆、目安を手がかりに、韓国語教育に生かせる有効な取り組みを模索したい。

2. 先行研究と本稿の目的

韓国語の漢語動詞について尹亨仁（2013）は、『デイリーコンサイス韓日辞典』（2009）の見出し語の分析から約6000語の漢語動詞の数値を提示している。とりわけ、2字漢語動詞は5334語で、全体の89.84%を占めている。＜表1＞に提示するように、新聞の社説および小説での使用状況を調べても、2字漢語動詞の使用は9割近くで、圧倒的と言えよう。

＜表1＞韓国語の漢語動詞の異なり語数の比較

音節	デイリー韓日辞典	割合(%)	中央2016	割合(%)	李箱10年	割合(%)
1音節	82	1.37	49	2.75	67	3.86
2音節	5,334	89.84	1,560	87.60	1,613	92.86
3音節	283	4.77	128	7.19	30	1.73
4音節	237	3.99	43	2.41	27	1.55
5音節	0	0	1	0.05	0	0
6音節	1	0.02	0	0	0	0
総語彙数	5,937	100.00	1,781	100.00	1,737	100

（尹亨仁2018：4より、網掛けは筆者）

この＜表1＞で、漢語動詞（正確には、漢語動名詞 Verbal Noun、以下では漢語VNと称する）から派生するヴォイスも2字漢語VNの割合が高いことは容易に推測できる。しかし、すべての漢語VNがヴォイスに派生できるわけではないため、どういう漢語VNがヴォイスに派生できるか、その派生における意味的・統語的条件は何なのかを捉える必要がある。

本稿では、派生時に複雑な様相を呈する韓国語の漢語VNのヴォイスの使用状況と目安を得るべく、1人の作家の作品に注目した。この作品の語

彙調査を通して韓国語のヴォイスが持つ派生上の特徴と制約の様子を浮き彫りにし、考察の結果を韓国語の中級と上級の授業に役立てたい。

3. 語彙調査の対象の選定

本稿では、韓国語の漢語 VN のヴォイスの使用状況を詳しく捉えるべく、韓国の有名作家の 1 人である 김훈（金薫）の散文『연필로 쓰기（『鉛筆で書く』）』（2019）を語彙調査の対象として選んだ。韓国語の漢語 VN の使用状況を把握するために新聞や小説を対象とした規模の大きい語彙調査も必要であるが、派生の様子と目安を得るためには、特定のテキストを対象とした一定の閉じた枠組みでの語彙調査も必要である。

3.1 1 人の作家の作品にみる漢語ヴォイスの使用状況

金薫の『연필로 쓰기』（『鉛筆で書く』、以下では日本語で提示する）は、2019 年 3 月に出版された散文である。テーマに合わせて用いる語彙が制約され、内容においては連続性と完結性が求められる小説と違って、『鉛筆で書く』は 3 部構成で、36 のトピックを取り上げている。時事問題をはじめ歴史上の人物など多様なトピックを取り上げており、物書きとしての思いのたけを述べているように思われた。

金薫は 1948 年生まれで、作家の前の職業は新聞記者である。作家になってから韓国でもっとも権威のある文学賞である「李箱文学賞」（2001 年・32 回）をはじめ、「東仁文学賞」（2004 年・28 回）、「大山文学賞」（2007 年・15 回）などを受賞した韓国を代表する作家の 1 人である。金薫は客観的な記述が求められる新聞記事の作成から小説・エッセーの執筆に至るまでいわば「書くこと」に関わるジャンルの間を行き来する、多様な表現のツールを持っている人とも言える。

筆者が金薫（2019）の散文を語彙調査の対象に選んだもう 1 つの理由は、彼が 70 歳を過ぎた韓国人であることである。1 人の韓国語母語話者として 70 年生きてきた人はどのような語彙を選択し、どういうふうに表示しているのか、ここにも興味を抱いたからである。『鉛筆で書く』は奥付まで入れて 468 ページの分量である。

3.2 分析対象語彙の選定の基準

今回の調査の分析対象語彙の選定の基準は、それぞれ次の通りである。

3.2.1 VN- 하다

今回の語彙調査では、受身文なら「能動文」、使役文なら「原動文⁴⁾」となる「VN- 하다 hada」の調査も行なった。分析対象語彙の選定の基準は、尹・崔（2017）での『中央日報』の調査基準に従った⁵⁾。

3.2.2 使役動詞の VN- 시키다

「VN- 시키다 sikida」の分類・分析に入る前に韓国語の使役動詞について簡単に整理しておきたい。韓国語の使役動詞の分類についてはいくつかの見方があるが、本稿では尹亭仁（2005）に従い、以下のような分類に沿って論を進めることにする。

- (1) a. I 類の使役動詞：固有語形容詞語幹・固有語動詞語幹
+ -이(-히/-리/-기)/(이)우/-구/-추)다
- b. II 類の使役動詞：形容詞・動詞語幹 + -게 하다
- c. III 類の使役動詞：動詞性名詞 + -시키다

「VN- 시키다」は (1c) の III 類の使役動詞に分類される。(1c) の中に「노래시키다 (歌わせる)」や「빨래시키다 (洗濯させる)」のように固有語から派生した使役動詞も含まれるが、本稿ではこれらは対象としない。

3.2.3 受身動詞の VN- 되다/- 받다/- 당하다

韓国語の受身表現についても、本稿では尹亭仁（2005）の以下のような分類に従う。

- (2) a. I 類の受身動詞：固有語動詞語幹 + -이(-히/-리/-기)다
- b. II 類の受身動詞：形容詞・動詞語幹 + -아지다
- c. III 類の受身動詞：動詞性名詞 + -되다/- 받다/- 당하다

「VN- 되다 doida/- 받다 babda/- 당하다 danghada」は (2c) の III 類の受身動詞に分類される。(2c) の中に「마련되다 (準備される)」「사랑받다 (愛される)」「닭달당하다 (せきたてられる)」のような固有語から派生した受身動詞も含まれるが、本稿ではこれらは対象としない。

正確な語彙数は得られていないが、筆者が集めている「2 字固有語+하다」は 700 語を超えないと見込んでいる。それに比べ、「2 字漢語+하다」は、7 千語は下らない。現在、筆者は『デイリーコンサイス韓日辞典』(2009) から拾い上げた 5334 語の「2 字漢語+하다」に、「中央日報社説 2016」および『李箱文学賞作品集 2006-2015』、その他の資料から集めた漢語 VN を加えながら、基礎資料となる「韓日漢語動詞 7000」(仮称)の作業を進めている⁶⁾。これには日本語訳だけでなく、ヴォイスの派生の判断に重要な

根拠となる品詞情報も加わるので、日韓両言語のヴォイス研究に役立つと思われる。

「2字固有語+하다」と「2字漢語+하다」の語彙数は比べ物にならないほどである。このような固有語 VN と漢語 VN の割合が韓国語にどのような特徴をもたらしているかは基礎資料が整備されてからの課題である。

4. 『鉛筆で書く』(2019) に用いられた漢語 VN の頻度

4.1 『鉛筆で書く』の語彙数

『鉛筆で書く』の語彙調査の結果を<表2>にまとめた。

<表2> 『鉛筆で書く』にみる漢語 VN の使用状況

ヴォイスの種類	延べ語数	割合 (%)	異なり語数	割合 (%)
【能動】VN- 하다	1,383	74.04	660	67.28
【使役】VN- 시키다	76	4.07	55	5.61
【受身】VN- 되다 (Ⅰ類)	360	19.27	185	22.93
【受身】VN- 받다 (Ⅱ類)	37	1.98	30	3.16
【受身】VN- 당하다 (Ⅲ類)	12	0.64	9	1.02
	1,868	100	939	100

延べ語数は「1868 語」、異なり語数は「939 語」である。能動文（または原動文）の「VN- 하다」の使用が7割以上を占めており、ヴォイスの派生は3割ほどである。

4.2 漢語 VN のヴォイスの派生にみる頻度

『鉛筆で書く』の語彙調査の結果は、韓国語における漢語 VN のヴォイスの使用状況の一端を示している。(3) でヴォイスの頻度の順番を見てみよう。

(3) 漢語 VN のヴォイスへの派生にみる頻度

VN- 되다 > VN- 시키다 > VN- 받다 > VN- 당하다

この頻度の順番の妥当性を確かめるべく、『고등학교국어 (高等學校國語)』(2018) の使用状況も調べた。

＜表 3＞『고등학교국어 (高等學校國語)』(2018) にみる漢語 VN の使用状況

ヴォイスの種類	延べ語数	割合 (%)	異なり語数	割合 (%)
【能動】VN- 하다	2,661	86.91	576	75.79
【使役】VN- 시키다	22	0.72	13	1.71
【受身】VN- 되다 ⁷⁾ (Ⅰ類)	328	10.71	135	17.76
【受身】VN- 받다 (Ⅱ類)	39	1.27	27	3.55
【受身】VN- 당하다 (Ⅲ類)	12	0.39	9	1.19
	3,062	100	760	100

(4) 『고등학교국어 (高等學校國語)』の漢語 VN のヴォイスへの派生にみる頻度

VN- 되다 > VN- 받다 > VN- 시키다 > VN- 당하다

『鉛筆で書く』も『고등학교국어 (高等學校國語)』も「VN- 하다」の使用が非常に目立っており、「VN- 되다」が後を次いでいるのは同じである。「VN- 시키다」の頻度はだいぶ下がり、「VN- 받다」の順番と入れ替わっている。「VN- 시키다」は単独で使役表現を担っているわりには受身表現ほど使用語彙数が多くない。これについては、5.2 で触れることにする。

5. 『鉛筆で書く』(2019) にみる漢語 VN の特徴

5.1 VN- 하다

『鉛筆で書く』(2019) で、「VN- 하다」は、延べ語数は 1383 語、異なり語数は 660 語である。

「VN- 하다」が『鉛筆で書く』(2019) で占める上位 20 語の延べ語数を＜表 4＞に提示した。新聞での漢語 VN と、小説での漢語 VN と異なる語彙のラインアップである。

<表 4> 『鉛筆で書く』の 2 字 VN- 하다 の上位 20 語および語数

順位	2 字漢語動詞	延べ語数	日本語
1	기록(記録)하다	24	記録する
2	전사(戦死)하다	20	戦死する
3	이해(理解)하다	19	理解する
4	작동(作動)하다	15	作動する
5	보고(報告)하다	13	報告する
6	등장(登場)하다	13	登場する
7	감당(堪當)하다	13	やりこなす
8	도달(到達)하다	12	到達する
9	지휘(指揮)하다	11	指揮する
10	설명(説明)하다	11	説明する
11	시작(始作)하다	10	始まる
12	짐작(斟酌)하다	9	推測する
13	지배(支配)하다	9	支配する
14	이동(移動)하다	9	移動する
15	요구(要求)하다	9	要求する
16	불구(不拘)하다	9	拘わらず ²⁸⁾
17	부여(附與)하다	9	付与する
18	발생(發生)하다	9	発生する
19	근무(勤務)하다	9	勤務する
20	저항(抵抗)하다	8	抵抗する
その他47語	640 語	1,142	
合計	660 語	1,383	

『鉛筆で書く』に、(5) のような漢語 VN の用法が見られた。これらは、『標準韓国語大辞典』(1999) や『東亜新国語辞典第 5 版』(2003) に当たったところ、名詞の用法しか持っていなかった。『李箱文学賞作品集 2006-2015』からは「음사(音寫)하다」と「집선(集船)하다」の用法が見られたが、辞書には載っていない。これらはいずれもカウントしていない。

(5) 풍매(風媒)하다・화전(火田)하다

5.2 VN- 시키다

『鉛筆で書く』で「VN- 시키다」は<表 2>のように、異なり語数 55（延べ語数 76）の使用状況を呈していた。10 位までの漢語動詞を<表 5>に提示する。

<表 5> 『鉛筆で書く』の VN- 시키다の上位 10 語および語数

順位	2 字漢語動詞	延べ語数	日本語
1	전환(轉換)시키다	9	轉換させる
2	작동(作動)시키다	5	作動させる
3	집중(集中)시키다	4	集中させる
4	연결(連結)시키다	3	連結させる・繋げる
5	배달(配達)시키다	2	配達させる
6	분출(噴出)시키다	2	噴出させる
7	이동(移動)시키다	2	移動させる
8	집결(集結)시키다	2	集結される
9	각인(刻印)시키다	1	刻印させる
10	개입(介入)시키다	1	介入させる
その他47語	45 語	45	
合計	55 語	76	

< VN- 시키다>の派生関係を（6 a-e）と<表 6>に提示する。

- (6) a. 自動詞 VN- 되다からの派生（3 語）
 각인(刻印)、고립(孤立)、마비(麻痺)
- b. 自動詞 VN- 하다からの派生（2 語）
 결혼(結婚)、전락(轉落)
- c. 共存動詞 VN- 하다/되다からの派生（13 語）
 개입(介入)、변화(變化)、안정(安定)、소생(蘇生)、위축(萎縮)、
 저하(低下)、접근(接近)、정착(定着)、침체(沈滯)、파생(派生)、
 편입(編入)、폭발(爆發)、확산(擴散)
- d. 自他兩用動詞 VN- 하다からの派生（13 語）
 격상(格上)、발현(發顯)、변형(變形)、분산(分散)、분출(噴出)、
 용해(溶解)、이동(移動)、작동(作動)、전환(轉換)、집결(集結)、
 집중(集中)、통과(通過)、통용(通用)

e. 他動詞 VN- 하다からの派生 (24 語)

결부(結付)、교란(攪亂)、등용(登用)、배달(配達)、보충(補充)、
분해(分解)、소외(疏外)、수장(水葬)、실현(實現)、연결(連結)、
완성(完成)、이입(移入)、이해(理解)、인식(認識)、적용(適用)、
충족(充足)、파직(罷職)、해소(解消)、해체(解體)、확장(擴張)、
환기(喚起)、회복(回復)、훼손(毀損)、희석(稀釋)

「VN- 시키다」の異なり語数は 55 語であるが、<表 6>を見れば分かるように、4つの「VN- 하다」の下位分類からだけでなく「VN- 되다」からも派生している。これを見ると、あらゆる「VN- 하다」は「VN- 시키다」に派生できそうである。しかし、4.2 で触れたように、「VN- 시키다」への派生は漢語 VN の総語彙数からすると、決して多くない。

本稿での調査テキストの規模も関係はあるが、テキストが大きくなっても派生語彙数は多くないと予想している。尹亨仁(2006)で論じられたように、接尾辞「- 시키다」は結果が含意されない VN には接続できない。そのため、「- 시키다」は「실감(實感)하다」「실패(失敗)하다」「지배(支配)하다」「칭찬(稱讚)하다」など多くの「VN- 하다」と共起できない、すなわち派生が制約されるのである。筆者はこの主張を裏付けるため、『李箱文学賞作品集 1986-2015』の 30 年間のデータを以て語彙調査をしている。これによって「VN- 하다」から「VN- 시키다」への派生の全容が明らかになると期待している。

<表 6> 「VN- 시키다」 への派生関係

分類→ 語数↓	VN- 되다 (自動詞)	VN- 하다 (自動詞)	VN- 하다/되다 (共存動詞)	VN- 하다 (自他兩用動詞)	VN- 하다 (他動詞)
1	각인(刻印)	결혼(結婚)	개입(介入)	격상(格上)	결부(結付)
2	고립(孤立)	전락(轉落)	변화(變化)	발현(發顯)	교란(攪亂)
3	마비(麻痺)		안정(安定)	변형(變形)	등용(登用)
4			소생(蘇生)	분산(分散)	배달(配達)
5			위축(萎縮)	분출(噴出)	보충(補充)
6			저하(低下)	용해(溶解)	분해(分解)
7			접근(接近)	이동(移動)	소외(疏外)
8			정착(定着)	작동(作動)	수장(水葬)
9			침체(沈滯)	전환(轉換)	실현(實現)
10			파생(派生)	집결(集結)	연결(連結)
11			편입(編入)	집중(集中)	완성(完成)
12			폭발(爆發)	통과(通過)	이입(移入)
13			확산(擴散)	통용(通用)	이해(理解)
14					인식(認識)
15					적용(適用)
16					충족(充足)
17					과직(罷職)
18					해소(解消)
19					해체(解體)
20					확장(擴張)
21					환기(喚起)
22					회복(回復)
23					훼손(毀損)
24					희석(稀釋)
55	3	2	13	13	24

<表 6>의 「VN- 시키다」 に派生できる「VN- 하다」の下位分類の中で、他動詞が最も多いが、使役対象（使役構文で動作を行なう主体）がニ格標示される有情物は少ない。(7a-d)のように格助詞の交替が見られない、すなわち「～가～ヲ」の「VN- 하다」の項構造のまま接辞が「- 시키다」に替わっ

たものも少なくない。(7a-d)の「고정(固定)하다/시키다」「약화(弱화)하다/시키다」「왜곡(歪曲)하다/시키다」「유발(誘發)하다/시키다」は韓国の小説や評論に見られた実例である。

- (7) a. 시선을 TV 화면에 고정(固定)시킨 채로 내가 물었다.
어둡신한 거실에서 마당의 대추나무에 눈길을 고정(固定)한 채 아버지와…
- b. 그는 자신의 지역색을 약화(弱화)시키고자 무진 애를 썼다.
그러나 바람은 냄새를 조금도 약화(弱화)하지 못했다
- c. 하긴 없는 터력을 만들어준 것도 진실을 왜곡(歪曲)시킨 것이지만요
사실을 왜곡(歪曲)해서라도 자신의 주장을 관철시키고 싶은 걸까?
- d. …전문가들뿐만 아니라 수많은 평범한 사람들의 호기심을 유발(誘發)시켜 왔다
나는 다만 단가를 싸게 함으로써 그들의 구매 동기를 유발(誘發)했을 뿐이요

ㄱ格で標示された使役対象が(7a)では「시선(視線)」と「눈길:目線」、(7b)では「지역색(地域色)」と「냄새:におい」、(7c)では「진실(眞實)」と「사실(事實)」、(7d)では「호기심(好奇心)」と「구매 동기(購買動機)」で、使役対象の意味から「VN-하다/-시키다」の接辞の交替の統語的根拠は見いだせない。加わるのは接辞の「-하다」と「-시키다」が構文にもたらす含意の違いである。尹(2006)でこの含意の違いについて論じているが、より具体的に捉えるためには(7a-d)のような用例のペアを集めて、漢語 VN と使役対象の特徴を明確にする必要がある。

ここまで、『鉛筆で書く』で用いられた韓国語の漢語 VN の使役動詞である「VN-시키다」の派生について取り上げた。散文1冊の分量にしては「VN-시키다」の派生は少なかった。この点から母数を大きくしても派生の数はそれほど多くならないという示唆を得た。また、<表6>に提示したような漢語 VN の用法が多いのではないかという示唆も得た。

5.3 VN-되다 (I類の受身)

<表2>の使用状況から分かるように、「VN-되다」は「VN-하다」に

次ぐ使用状況を呈している。しかし、「VN- 되다」は「VN- 하다」より派生状況が複雑である。(8)の派生関係を見てみよう。

(8) VN- 되다の派生関係

- a. VN- 되다 (形容詞)
- b. VN- 되다 (自動詞)
- c. VN- 하다/되다 (共存動詞)
- d. VN- 되다 (自他兩用動詞の受身動詞)
- e. VN- 되다 (他動詞の受身動詞)

「VN- 되다」は(8a-e)のように5つに下位分類できる。「VN- 되다」は「VN- 하다」から派生した受身動詞として捉えられることが多いが、派生関係を見ると、「自他兩用動詞」と「他動詞」から派生した受身動詞以外に「形容詞」と「自動詞」の派生形も含まれている。形容詞の「VN- 되다」は「세련(洗練)되다」以外に確認はできていないが、10語を超えないと思っている。「VN- 되다」が自動詞の場合は今までの調査で20語ほど確認できた。本稿での調査だけでも10語の用法が見られた。「마비(麻痺)」「모순(矛盾)」「오염(汚染)」など頻度の高い語も含まれている。

これ以外に、文脈によって「VN- 되다」になったり「VN- 하다」になったりする「하다/되다共存動詞」がある。これは、現在筆者が辞書での分類を参考に用例を集めたものだけでも500語を超えている。この数は自他兩用動詞よりも多く、「韓日漢語動詞7000」(仮称)の約1割に近い数字である。今回の調査にも見られた「도착(到着)하다(5回)/되다(1回)」と「소멸(消滅)하다(1回)/되다(1回)」の実例を見てみよう。

- (9) a. 세계의 모든 공항에는…비행기가 도착(到着)하면 기체에 쌓인
 똥을 빼내서 분뇨처리장으로 싣고 간다. (p. 62)
 전군량마저 도착(到着)되지 않아 더욱 답답하다. (p. 111)
- b. …일출하는 동해의 색들은 대낮의 밝음 속으로 소멸(消滅)했다
 가, 저녁 일몰에 살아난다. (p. 355)
 …이념이 조장하는 폭력의 비명소리에 묻혀서 소멸(消滅)되거나
 증폭되거나 뒤섞여서 난청의 백색음을 이루는 듯했다.
 (p. 160)

共存動詞の中には、用法がどちらかに固まっているVNも散見する。「무

산(霧散)-되다」「회자(膾炙)-되다」などは「VN-되다」の例である。小説や新聞記事から採集した実例を見ると、もっぱら「VN-되다」で用いられている。そのうち(8b)のように「VN-되다」の用法のみが記述されると思っている。主に「VN-하다」で用いられているのは「가입(加入)-하다」「발생(發生)-하다」などである。「긴장(緊張)하다/되다」の場合、集めた用例からは「긴장(緊張)하다」の用例が多いが、『鉛筆で書く』では「긴장(緊張)되다」の4例だけが見られた。また「성립(成立)하다/되다」の場合、集めた用例からは「성립(成立)하다」の用例が少し多かったが、『鉛筆で書く』では「성립(成立)되다」のみ5例が見られた。「VN-되다/하다」の使用に個人の文体の違いも関わっているかもしれない。これも今回の語彙調査から得た示唆である。この点を視野に入れてさらに調査を続けたい。

他に(10a)のように、「VN-하다」形なのに、「VN-되다」形で用いられているもの、(10b)のように、名詞形なのにVN形で用いられるもの、(10c)のように辞書にVNも載っていないのに「VN-되다」形で用いられているものなどが加わると混乱はさらに増す。中には明らかに受身というより可能の意味であったが、VNが他動詞の場合、受身に分類したものである。このように「VN-되다」の入り組んだ派生状況が韓国語のヴォイス研究に大きく立ちはだかっているのが現状である。また、日本における韓国語の教育現場でヴォイスの導入が遅い理由でもある。

- (10) a. VN-하다形なのに VN-되다形で用いられている (5 語)
격절(隔絶)、결속(結束)、연대(連帶)、탈상(脱喪)、토착(土着)
- b. VN が辞書に載っているが名詞形である語 (1 語)
유습(遺習)
- c. VN が辞書に載っていない語 (1 語)
무화(無化)

＜表 7＞ VN- 되다의分布状況

分類→ 語数↓	VN- 되다 (自動詞)	VN- 하다/되다 (共存動詞)	VN- 하다 (自他兩用動詞)	VN- 하다 (他動詞)	VN- 하다 (その他)
1	각인(刻印)	개입(介入)	고착(固着)	각성(覺醒)	격절(隔絶)
2	고갈(枯渴)	고립(孤立)	궤멸(潰滅)	간행(刊行)	결속(結束)
3	마비(麻痺)	공통(共通)	동원(動員)	개조(改造)	무화(無化)
4	모순(矛盾)	관련(關聯)	반감(半減)	개통(開通)	세련(洗練)
5	숙련(熟練)	긴장(緊張)	발현(發現)	거래(去來)	연대(連帶)
6	실종(失踪)	도착(到着)	보도(報道)	거치(据置)	유습(遺習)
7	오염(汚染)	밀착(密着)	소실(燒失)	거행(舉行)	탈상(脫喪)
8	유실(流失)	변질(變質)	심화(深化)	검거(檢舉)	토착(土着)
9	중독(中毒)	붕괴(崩壞)	연락(連絡)	결성(結成)	
10	지연(遲延)	성립(成立)	예정(豫定)	결정(決定)	
11		소멸(消滅)	용해(溶解)	결집(結集)	
12		안정(安定)	유전(遺傳)	경험(經驗)	
13		연관(聯關)	작동(作動)	계속(繼續)	
14		전소(全燒)	재현(再現)	계승(繼承)	
15		조인(調印)	주차(駐車)	고용(雇用)	
16		직결(直結)	집결(集結)	고지(告知)	
17		침몰(沈沒)	출토(出土)	공유(共有)	
18		침수(侵水)	향상(向上)	관리(管理)	
19		편입(編入)	훈련(訓練)	구별(區別)	
20		풍화(風化)	희생(犠牲)	구성(構成)	
21		합류(合流)		구속(拘束)	
22		합치(合致)		143	
225	10	22	20	165	8

「VN- 되다」は総語彙数が225語であるが、受身用法に派生したVN-は185語である。＜表2＞を見れば分かるように、全体の2割ほどを占めており、ヴォイスの派生形にしては、使用語彙数が少なくない。

この「VN- 되다」に対応する日本語が(11)のように「VN-する」の場合がある。日本語に訳した場合、「VN-される」ではなく「VN-する」に

なるのである。その逆も同様で、(12a-c)のように「VN- 하다」ではなく「VN- 되다」に訳されるのである。

(11) 마비(麻痺)되다: 麻痺する

모순(矛盾)되다: 矛盾する

실종(失踪)되다: 失踪する

(12) a. あるいは語義的に矛盾した表現に聞こえるかもしれませんが…
(村上春樹、『職業』、p. 117)

단어의 의미상으로는 좀 모순(矛盾)된 표현으로 들릴지도 모르지만, … (양윤옥 옮김, 『직업』、p. 126)

b. 結果的に矛盾する箇所、筋の通らない箇所がたくさん出て… (村上春樹、『職業』、p. 143)

결과적으로 모순(矛盾)되는 부분, 이야기의 앞뒤가… (양윤옥 옮김, 『직업』、p. 152)

c. 耳からたくさんの白い毛を出し、目は赤く充血していた。(村上春樹、『色彩』、p. 268)

귀에 하얀 털이 덩수룩하고 눈은 빨강게 충혈(充血)되었다. (양익관 옮김, 『색채』、p. 317)

日韓対照言語学では(13)の対応関係が概ねデフォルトとして認められている。しかし、実際の対応においてはそうではないため、(11)と(12a-c)のような非対応は、日韓対照言語研究の中で最も注目を集めている。先行研究も少なくないが、<表7>のような下位分類が整理できていないと議論はより複雑になる。筆者は「韓日漢語動詞 7000」(仮称)で「VN- 하다」だけでなく「VN- 되다/하다」、「VN- 되다」も一緒に提示する計画である。

(13) VN- 하다・VN- 되다・VN- 시키다と日本語の基本的対応関係

VN- 하다 ⇔ VN- スル

VN- 시키다 ⇔ VN- サセル

VN- 되다 ⇔ VN- サレル

5.4 VN- 받다 (Ⅱ類の受身)

『鉛筆で書く』で「VN- 받다」は(14a, b)のように、異なり語数 30 (延べ語数 37) の使用状況を呈していた。他動詞からの派生が受身表現の基本

であることが確認された。

- (14) a. VN- 하다 (自他両用動詞) からの派生
 비판(批判)、주목(注目)、판정(判定)
- b. VN- 하다(他動詞) からの派生
 검사(検査)、고문(拷問)4、공격(攻撃)、교육(教育)、
 기습(奇襲)、대접(待接)、보상(報償)、보호(保護)、
 부여(賦與)、소개(紹介)、안내(案内)、원조(援助)、
 이해(理解)4、임명(任命)、조명(照明)、지급(支給)、
 지도(指導)、지배(支配)、지원(支援)、지휘(指揮)2、
 축복(祝福)、취급(取扱)、칭찬(稱讚)、통고(通告)、
 통제(統制)、허가(許可)、허락(許諾)

＜表 8＞ VN- 받다への派生関係

分類→ 語数↓	VN- 되다 (自動詞)	VN- 하다 (自動詞)	VN- 하다/되다 (共存動詞)	VN- 하다 (自他両用動詞)	VN- 하다 (他動詞)
1	전화(電話)			비판(批判)	검사(検査)
2				주목(注目)	고문(拷問)
3				판정(判定)	공격(攻撃)
4					교육(教育)
5					기습(奇襲)
6					대접(待接)
7					보상(報償)
8					이해(理解)
9					지배(支配)
10					통고(通告)
他					17
30	0	0	0	3	27

『鉛筆で書く』で、自動詞からの派生である「전화(電話)받다」の用例が見られたが、カウントしなかった。「전화(電話)받다」は (15a) のように原動詞の「전화(電話)하다」が存在し、派生関係は体系的である。しかも、自他両用動詞からの派生である (15b)、他動詞からの派生である (15c) と項構造が同じである。また (16) のように文の中に動作主標示も含める。

- (15) a. 전화(電話)받다 ⇔ 전화(電話)하다
 b. 비판(批判)받다 ⇔ 비판(批判)하다
 주목(注目)받다 ⇔ 주목(注目)하다
 c. 검사(檢査)받다 ⇔ 검사(檢査)하다
 공격(攻撃)받다 ⇔ 공격(攻撃)하다

(16) N-((으)로부터/에게서/한테서)

전화받다/비판받다/주목받다/검사받다

筆者は、「전화(電話)하다」のように、自動詞の「VN-하다」なのに「VN-받다」に派生できる VN の用例は今のところ把握していない。「전화(電話)하다」のように、相手に「連絡を取る」「伝える」の意味を持つ「기별(寄別)하다」「연락(連絡)하다」の場合、自他両用動詞である。現段階では、「전화(電話)하다」がどういうプロセスを経て「전화(電話)받다」に派生できたのか、その根拠の提示は難しい。「전화(電話)받다」は「전화(電話)하다」より「전화(電話)를 걸다: 電話をかける」から「전화(電話)를 받다: 電話を受ける」に派生したものとも考えられる。文脈からも「電話された」より「電話を受けた」の意味になる。

(17a, b) のような「VN-받다」構文の用法も見られるが、分かち書きをしない場合が多いため、受身動詞であると判断を誤りやすい。いずれも対応する「VN-하다」が存在しない。「VN-받다」の用例を集める場合、このような構文的相違を見せるものをふるいにかける作業も必要である。

- (17) a. 세금(税金)(을) 받다 ⇔ 세금(税金)(을) 내다(*세금(税金)하다)
 특허(特許)(를) 받다 ⇔ 특허(特許)(를) 주다(*특허(特許)하다)
 b. 영향(影響)(을) 받다 ⇔ 영향(影響)을 주다/미치다
 (*영향(影響)하다)

「VN-받다」で用いられる動作主標示の「(으)로부터/에게서/한테서」は「VN-받다」構文の受身性の検証に重要な要素である。「(으)로부터」と「에게서/한테서」の違いは、日本語の「有情物-カラ」と「有情物-ニ」の違いに近い部分があるが、稿を改めて取り上げることにしたい。

5.5 VN-당하다 (Ⅲ類の受身)

『鉛筆で書く』で「VN-당하다」は(18a)のように、異なり語数9(延べ語数12)の使用状況を呈していた。(18b)は自動詞からの派生であるため、カウントしなかった。「전화(電話)받다」で取り上げたように、自動詞か

らの派生の場合、統語的検証が必要である。自動詞から派生した「부상(負傷)당하다」は、「VN-하다」からの派生というより、「부상(負傷)을 당하다」のように、本動詞の「당하다」の用法として見るのが妥当であると思われる。すなわち、「VN-당하다」の「統語的受身」ではなく本動詞の「당하다」がもたらす「語彙的受身」の一種である。日本語に見られる「被害の受身」の場合、二格による動作主標示があることと比較してもその違いははっきりしている。

- (18) a. 간파(看破)、거절(拒絶)3、기소(起訴)2、
살해(殺害)、수용(收容)、총살(銃殺)、
침범(侵犯)、파괴(破壊)、학살(虐殺)
b. 부상(負傷)4

「VN-당하다」において VN の意味は、いずれもネガティブである。『고등 학교 국어(高等學校國語)』(2018) に用いられた 9 語の「VN-당하다」は (19a) のようなものである。(19b) の「동작(動作)당하다」は自動詞からの派生であり、(18b) と同じ理由で受身動詞からは除外した。

- (19) a. 간파(看破)、거절(拒絶)3、기소(起訴)2、무시(無視)、박탈(剝奪)、부정(否定)、압수(押收)、억압(抑壓)、포위(包圍)
b. 동작(動作)2

今回の語彙調査では、「VN-당하다」の用例が多くなかったため、過剰般化は早計であるが、『東亜新国語辞典第 5 版』(2003: 563) に記述されているように、VN の意味は「 좋지 않은 뜻의 동작을 나타내는 일부 명사(よくない意味の動作を表わす一部の名詞：訳は筆者)」であることは確認できたと思われる。

<表 9> VN- 당하다への派生関係

分類→ 語数↓	VN- 되다 (自動詞)	VN- 하다 (自動詞)	VN- 하다/되다 (共存動詞)	VN- 하다 (自他両用動詞)	VN- 하다 (他動詞)
1	부상(負傷)				간파(看破)
2					거절(拒絶)
3					기소(起訴)
4					살해(殺害)
5					수용(收容)
6					총살(銃殺)
7					침범(侵犯)
8					파괴(破壊)
9					학살(虐殺)
9	0	0	0	0	9

ここまで、受身接辞「- 되다/-받다/-당하다」の派生関係を見てみた。様相が複雑であること、「VN- 되다」は「VN- 하다」に次ぐ用例数を呈していたこと、「VN- 받다」や「VN- 당하다」の使用は活発ではないことが分かった。

今回の調査で、「VN- 되다」は 185 語、「VN- 받다」は 30 語、「VN- 당하다」は 9 語の用法が見られた。母数が大きくなかったため、3つの接辞の住み分けの根拠は提示できないが、<表 10>のように2つの用法の共存の様子も見られた。

<表 10> 「VN- 되다 /- 받다 /- 당하다」の住み分け

分類→ 語数↓	VN- 되다 (自動詞)	VN- 하다 (自動詞)	VN- 하다 (自他両用動詞)	VN- 하다 (他動詞)
1	고문(拷問)	-	○	○
2	임명(任命)	○	○	-
3	허가(許可)	○	○	-
		2	3	1

(20a-c) は韓国の小説や新聞記事からの実例である。「매료(魅了)-되다/-당하다」「압도(壓倒)-되다/-당하다」「평가(壓倒)-되다/-받다」のように、

同じ VN に 2 つの受身接辞が用いられた。

- (20) a. 나는…뛰어난 상상력의 자유로운 발산에 매료(魅了)되었다.
 …작품과 판단의 명료함에 내가 매료(魅了)당했기 때문이다
- b. 언제부터인가 고죽을 감돌고 있는 이상한 위엄과 기품에 압도(壓倒)된 탓이었다
 …그의 미모에 압도(壓倒)당한 평범한 상현의 아내는 웬지 자기
 운명에 검은…
- c. …그녀의 시들은 인간 비평가들에 의해서 뛰어난 작품들로 평가(評價)되었고…
 …좋은 프로그램으로 시청자에게 평가(評價)받겠다고 재차 강조
 했다

筆者の母語話者としての判断では、(21a-c) のように、3 つとも接続できる VN もある。

- (21) a. 지배(支配)하다 ⇔ 지배(支配)되다/받다/당하다
 b. 선택(選擇)하다 ⇔ 선택(選擇)되다/받다/당하다
 c. 제한(制限)하다 ⇔ 제한(制限)되다/받다/당하다

上記で考察したように、Ⅲ類の受身動詞に派生できる VN は他動詞である。しかし、(22a-c) のような他動詞 VN はいずれの接辞とも接続できない。

- (22) a. 실감(實感)하다 ⇔ *실감(實感)-되다/-받다/-당하다
 b. 암송(暗誦)하다 ⇔ *암송(暗誦)-되다/-받다/-당하다
 c. 애도(哀悼)하다 ⇔ *애도(哀悼)-되다/-받다/-당하다

このように、3 つの接辞と接続できる VN といずれの VN とも接続できない VN、いずれの 1 つまたは 2 つと接続できる VN など、8 種類以上の派生のタイプが考えられる。どのような「VN-하다」が「VN-되다/-받다/-당하다」に派生できるのか、その意味的・統語的条件の理論的根拠の提示が急がれる。

外国語教育においては、理論的可能性の提示より、頻度に裏付けられた実用性の高い用法の提示が求められる。筆者は、『李箱文学賞作品集 1986-2015』の 30 年間のデータおよび『中央日報』5 年間 (2016-2020) の社説を以て韓国語の漢語 VN のヴォイスへの派生関係について語彙調査をしている。この統語的情報も「韓日漢語動詞 7000」(仮称)に加えていく計画で

ある。『鉛筆で書く』（2019）での考察から垣間見えたように、「VN-되다」以外の「VN-만다」「VN-당하다」の用例は多くないと予想している。このデータの整備により、韓国語の漢語 VN のヴォイス派生の理論的根拠が得られると期待している。

6. 韓国語のヴォイスと活用指針の策定

6.1 日本の場合

日本における韓国語教育の現場では、上級レベルになってもヴォイスの体系的学習が難しいのが現状である。3.2 で取り上げたように、ヴォイスの派生が8種類にも及ぶことが大きい理由と思われる。

本節では、日本における韓国語テキストの中ではどの段階でヴォイスの学習が行なわれているかについて少し触れたい。韓国語のヴォイスは日本語より体系が複雑であるため、どの段階でどの種類まで取り上げるのが効果的なのか、非常に悩ましい問題である。日本で、「初級」を名乗っている韓国語テキストの中で、ヴォイスを取り上げたのは金・張（2003）の『韓国語レッスン初級Ⅱ』のみである。しかし、このⅡは初級ではなく、中級以上のレベルである。このようになったのは、『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』の体裁を借りたからだと思われる。金・張（2003：135）では、韓国語の3種類の使役表現がセットで取り上げられている。生越（2009：80-82）でも3種類の使役表現がセットで取り上げられている。シリーズで第4巻まで出ている油谷・南（2001-2004）では、本稿で取り上げているⅢ類の使役表現は見られなかった⁸⁾。第4巻（2004）で固有語の派生形であるⅠ類の使役動詞の一部が取り上げられている。初級（2000）から上級（2008）まで出ている李昌圭では、Ⅱ類の使役動詞の「-게 하다」のみが上級（2008）で取り上げられている。

受身表現の場合も使役表現と同様の状況で、初級レベルでは金・張（2003：134）のみが韓国語の5種類の受身表現をまとめて取り上げている。生越（2009：60-63）でも5種類の受身表現が、油谷・南では、第2巻改訂（2006：78-83）で「VN-되다」が、第3巻（2003：2-7）で「VN-만다」と「VN-당하다」が取り上げられている。初級から上級までである李昌圭では、受身表現に関する項目はなかった。

参考として、日本語テキストの『みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊』の場合、第37課で（2013：96-103）で受身表現が、第48課（2013：188-

195) で使役表現が取り上げられている。

6.2 韓国の場合

韓国で外国人を対象とする韓国語教育の現状は日本より厳しい。例えば、ソウル大学言語教育院が出した、第4巻までであるテキストの『韓国語 1-4』(初級・中級・中上級・上級レベル、4学期、週5日、1巻当たり200時間)の場合、3巻の中上級レベルに「受身の接辞」と「使役の接辞」の文法項目が登場する。しかし、ここで取り上げられているのは、Ⅰ類のヴォイスのみである。

また、延世大学校韓国語学堂で出した第3巻までであるテキストの『외국인을 위한 한국어 문법 연습 : 外国人のための韓国語文法練習』の場合、中級(2012)の「사동(使動)」と「피동(被動)」という項目でⅠ類の使役動詞とⅠ類の受身動詞の一部が取り上げられているだけである。また、中級(2012)でⅡ類の使役動詞の「-게 하다」が、動詞の用法を中心に取り上げられている。初級(2012)で、Ⅱ類の受身動詞の「-아지다」が、「피동(被動)」という用語とともに取り上げられている。本稿で主に取り上げたⅢ類については項目が設けられていなかった。

しかし、初級(2012)で文法の説明の中に「완료(完了)된 상태」(p. 202)、「생략(省略)될 수」(p. 222)、「계속(継続)되는 동안」(p. 238)、「나열(羅列)된」(p. 256)の用法が用いられている。中級(2012)でも用例の説明や用例の中に、例えば「시작(始作)되기 전」(p. 10)、「예상(豫想)된 결과」(p. 32)、「상반(相反)되는 내용」(p. 32)、「완료(完了)되었을 때」(p. 41)などが、上級(韓国では、고급(高級))の用例に「발견(發見)되었다」(p. 134)、「발견(發見)된」(p. 135)、「통과(通過)되었다」(p. 130)、「악화(惡化)되었다」(p. 139)、「구출(救出)된」(p. 141)、「판단(判斷)된다」(p. 150)、「제공(判斷)되는」(p. 164)が用いられており、ここでも「VN- 되다」の頻度が確認できた。しかし、文法項目として取り上げていない理由はつかめていない。

上級(2012)で「독립(獨立)시키셔야죠」(p. 132)、「진행(進行)시키면」(p. 141)、「통과(通過)시켰다」(p. 144)の用例が見られたが、「VN- 시키다」に関する文法項目もなかった。

尹亭仁(2011)によると、固有語からの派生であるⅠ類の使役動詞も、Ⅰ類の受身動詞もそれぞれ300語を超えない。語彙数にしては漢語VNが

断然多い。しかし、漢語 VN のヴォイスも「VN- 되다」以外はそれほど活発ではないことが今回の語彙調査から垣間見えた。

6.3 活用指針になる重要漢語動詞の策定の必要性

筆者は、『中央日報 2016』の社説と『李箱文学賞作品集 2006-2015』の語彙調査・分析の結果から、918 語の共通 2 字漢語動詞の使用を確認した。この共通する 918 語に、韓国と日本での韓国語テキストから拾い上げた頻度の高い漢語動詞を加え、「重要漢語動詞 1000」の確定を試みている。この「重要漢語動詞 1000」を中心に『中央日報』の社説 5 年分 (2016-20) と『李箱文学賞作品集 1986-2015』を対象に「使役形」と「受身形」の全数調査を行なう下準備をしている。それぞれの漢語 VN の派生タイプのリストと頻度などを整理する計画である。特に漢語 VN の全体の 5 割以上を占めている他動詞の 3 種類の受身形の分類には細心の注意を払いたい。この全数調査から「VN- 되다/-만다/-당하다」の分布状況や頻度、VN の持つ項構造の特徴と派生関係も明らかになると予測している。「VN- 시키다」については、頻度調査、VN の特徴（動詞の自他・共起する格助詞・動作主標示など）について分析を施す計画である。

筆者は、韓国語の漢語 VN のヴォイス派生に関しては、この「重要漢語動詞 1000」を用いての演繹的正の転移のアプローチを試みたい。そのためには「ある程度規模のある特定のテキストを対象とした閉じた枠組みでの全数調査」は不可欠であり、筆者にとってそれが『中央日報』の社説 5 年分 (2016-20) と『李箱文学賞作品集 1986-2015』である。新聞は 3 年分の下準備ができており、残りは毎月整理している。約 250 本の文学作品はデータ整備を急いでいる。

7. 終わりに

本稿では、金薫の散文『연필로 쓰기 (鉛筆で書く)』(2019) を対象に韓国語の漢語動詞のヴォイスの語彙調査を行ない、使用状況および使役動詞と受身動詞への派生関係の特徴について取り上げた。韓国語の母語話者として 70 年を生きた 1 人の韓国人作家の言語表現を通して、韓国語における漢語動詞の使用の一面を浮き彫りにすることができた。韓国語の漢語動詞のヴォイスは派生において非常に複雑な様相を呈しているが、使用において「VN- 되다」以外に「VN- 시키다」「VN- 만다」「VN- 당하다」は予想

より活発ではなかった。この点を踏まえながら、「韓日漢語動詞 7000」の基礎資料を整備しつつ『中央日報』の社説と『李箱文学賞作品集』の語彙調査および分析を続けたい。

注

- 1 本研究は、JSPS 科研費 19 K 00775 の助成を受けたものである。
- 2 日本の和語に相当するものである。
- 3 8 種類を取り上げなければならないため、「短文ドリル」、「長文読解」まで済ませるには 8 回分の授業が必要である。中級の後期から作文の課題が増え、受身文の使用が散見されるので、受身は中級、使役は上級というふうに分けることも一つの方法ではある。しかし、ヴォイスをまとめて伝えた方がより効果的であるため、分散指導には踏み切っていない。
- 4 本稿では、「原動文」という概念を取り入れた。使役文と原動文の規定については、早津恵美子 (2016)、p. 4 を参照されたい。
- 5 詳細については、尹・崔 (2017)、pp. 132-133 を参照されたい。
- 6 併行して、「日韓漢語動詞 7000」(仮称) の作業も進めている。両言語ともに 7000 語は漢語 VN を網羅した数ではないが、「使用語彙」はもちろん「理解語彙」までカバーできると考えている。張志剛 (2014) は『読売新聞』(2010 年) に用いられた漢語動詞を調べ、4,383 語の 2 字漢語 VN を取り上げている。
- 7 今回の調査で、受身動詞ではない「VN-되다」をはじく作業までには至らなかったため、一部の自動詞と共存動詞が混ざっている可能性はある。
- 8 主に「-에도/-음에도 불구하고(不拘)하고 (～にも拘わらず)」の形で用いられる。
- 9 第 2 巻の p. 64 および「単語リスト」(p. 140) に本動詞の「시키다」の意味として「させる・注文する」がついているが、本文での用法は確認できなかった。

【参考文献】

- 張志剛 (2014) 『現代日本語の二字漢語動詞の自他』 くろしお出版
- 早津恵美子 (2016) 『現代日本語の使役文』 ひつじ書房
- 尹亨仁 (2005) 「韓国語と日本語のヴォイス構文に関する対照研究—動作主の格標示と構文の生産性を中心に」、東京大学大学院総合文化研究科博士論文
- 尹亨仁 (2006) 「韓国語と日本語の使役表現—使役動詞 < VN-sikida > と使役動詞 < VN-させるの対応関係を中心に」、『神奈川大学言語研究』 37、pp. 1-26、神奈川大学言語研究センター
- 尹亨仁 (2011) 「韓国語の使役動詞の特徴—辞書の見出し語の分析を中心に」、武内道子・佐藤裕美編『発話と文のモダリティ—対照研究の視点から』、pp. 233-257、ひつじ書房
- 尹亨仁 (2018) 「韓国語の漢語動詞の語彙調査 (2) —『李箱文学賞作品集 2006-2015』の分析を中心に—」『神奈川大学言語研究』 41、pp. 1-30、神奈川大学言語研究セ

ンター

- 尹亨仁・車香春 (2013) 「韓国語と日本語の2字漢語動詞に関する一考察－韓日辞典に見られる異同を手がかりに」『神奈川大学言語研究』36、pp. 1-24、神奈川大学言語研究センター
- 尹亨仁・崔英姬 (2017) 「韓国語の漢語動詞の語彙調査 (1) —『中央日報』の社説 (2016年1～12月) の分析を中心に—」『神奈川大学言語研究』40、pp. 129-151、神奈川大学言語研究センター

【辞書類】

<日本語>

- 佐竹秀雄・三省堂編修所編 (2010) 『デイリーコンサイス国語辞典』第5版 (中型版) 三省堂
- 松村明編 (2019) 『大辞林』第4版 三省堂
- 尹亨仁編 (2009) 『デイリーコンサイス韓日辞典』三省堂

<韓国語> (ハングル順)

- 李基文監修 (2003) 『東亜新国語辞典』第5版 東亜出版社
- 国立国語研究院 『標準韓国語大辞典』 (1999) 国立国語研究院

【韓国語・日本語テキスト】

- 이성영他 (2018) 『고등학교국어 (高等學校國語)』天才教育：ソウル
- 李昌圭 (2005) 『韓国語中級』白帝社
- 李昌圭 (2006) 『韓国語初級改訂』白帝社
- 李昌圭 (2008) 『韓国語上級』白帝社
- 生越直樹 (2009) 『ことばの架け橋中級表現編』白帝社
- 金東漢・張銀英 (2003) 『改訂版韓国語レッスン初級Ⅱ』スリーエーネットワーク
- ソウル大学語学研究院 (2010) 『韓国語 1-4』Moonjin Media：ソウル
- 延世大学校韓国語学堂 (2012) 『외국인을 위한 한국어 문법 연습 (外国人のための韓国語文法練習) 初級・中級』延世大学校出版文化院：ソウル
- 延世大学校韓国語学堂 (2011) 『외국인을 위한 한국어 문법 연습 (外国人のための韓国語文法練習) 上級』延世大学校出版文化院：ソウル
- 油谷幸利・南相環 (2001) 『総合韓国語 1』白帝社
- 油谷幸利・南相環 (2002) 『総合韓国語 2』白帝社
- 油谷幸利・南相環 (2003) 『総合韓国語 3』白帝社
- 油谷幸利・南相環 (2004) 『総合韓国語 4』白帝社
- 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』 (2013) スリーエーネットワーク

【小説】

<日本語>

村上春樹 (2013) 『色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年』 文藝春秋

村上春樹 (2015) 『職業としての小説家』 スイッチ・パブリッシング

<韓国語>

김훈 (金薰) (2019) 『연필로 쓰기 (鉛筆で書く)』 문학동네 : ソウル

양억관 (嬴衮) (2013) 『색채가 없는 다자키 쓰쿠루와 그가 순례를 떠난 해 (色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年)』 민음사 : ソウル

양윤옥 (嬴潤) (2016) 『직업으로서의 소설가 (職業としての小説家)』 현대문학 : ソウル

『이상문학상 작품집 李箱文学賞作品集 2006-2015』 文学思想社 : ソウル